

広島県経済の動向

令和8年9月15日

商 工 労 働 局

目 次

1	経済動向の概要	1
	（１）国内経済の動向	
	（２）広島県経済の動向	
2	県内主要製造業の生産動向	3
	（１）鉄鋼	
	（２）自動車	
	（３）造船	
	（４）一般機械	
	（５）電気機械	
3	中小企業の動向	5
	（１）概況	
	（２）景況感・景況感の変化	
	（３）前月から変化のあった主な業種	
4	企業倒産状況	7
	（１）概況	
	（２）業種別	
	（３）原因別	
	（４）今後の見通し	
5	最近の雇用失業情勢	8
	（１）県内の有効求人・求職の動向	
	（２）県内の新規求人・求職の動向	
	（３）県内の人員整理の状況	
	（４）完全失業率の状況（全国・県内）	

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

1 経済動向の概要

(1) 国内経済の動向

ア 概要

指 標	令和8年		
	6月	7月	8月
基調判断	景気は、穏やかに回復しているが、 中東情勢の影響を注視する必要がある		景気は、緩やかに回復して いるが、中東情勢や自然災害 の影響を注視する必要がある
輸 出	このところ持ち直しの動きがみられる		持ち直しの動きがみられる
生 産	横ばいとなっている		
設備投資	持ち直している		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	持ち直しの動きがみられる		
住宅建設	弱含んでいる		総じて横ばいとなっている
消費者 物価	緩やかに上昇している		
企業収益	改善の動きがみられるが、 中東情勢の影響を注視する必要がある		改善しているが、 中東情勢の影響を注視する 必要がある

イ 先行き

雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和8年8月27日公表）】

(2) 広島県経済の動向

ア 概要

指 標	令和8年		
	5月	6月	8月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	緩やかに持ち直している		緩やかに回復している
生 産	緩やかに持ち直している		緩やかに回復している
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	下げ止まっている		
消費者物価 (除く生鮮食品、広島市)	1%台半ばのプラスとなっている		

イ 県内の経済の先行き

今後の中東情勢の展開や原油価格の動向などが、企業の生産や賃金・価格設定行動、個人消費の動向など、県内の金融経済情勢に与える影響を注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（令和8年9月4日公表）】

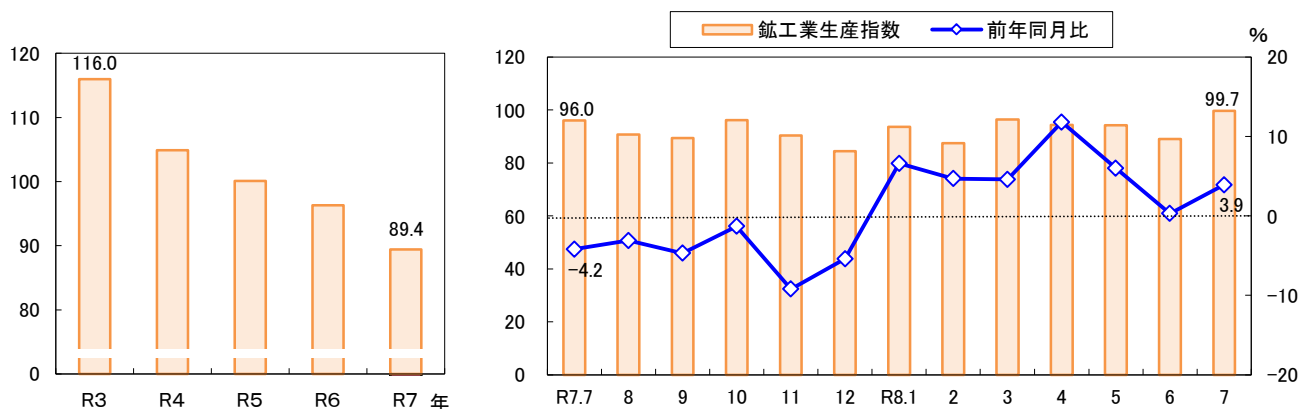
2 県内主要製造業の生産動向

(1) 鉄鋼（令和8年7月）

7月の鉄工業生産指数（鉄鋼業、原指数、速報値、令和2年＝100）は99.7で、前年同月比で3.9%増加となっている。

鉄工業生産指数(鉄鋼業)(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】

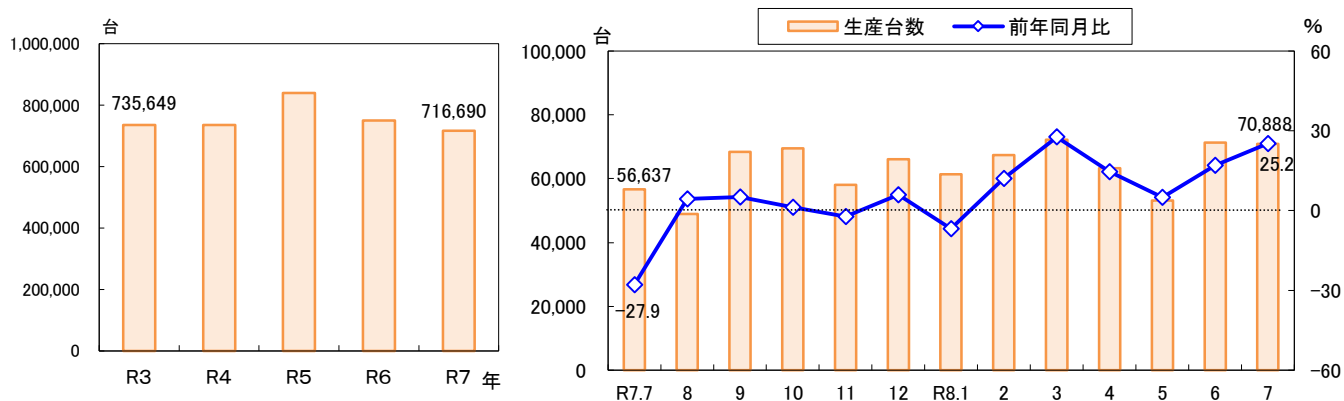


(2) 自動車（令和8年7月）

7月の国内生産台数は70,888台で、前年同月比で25.2%増加となっている。

自動車生産台数(年別・月別・前年同月比)

【マツダ（株）】

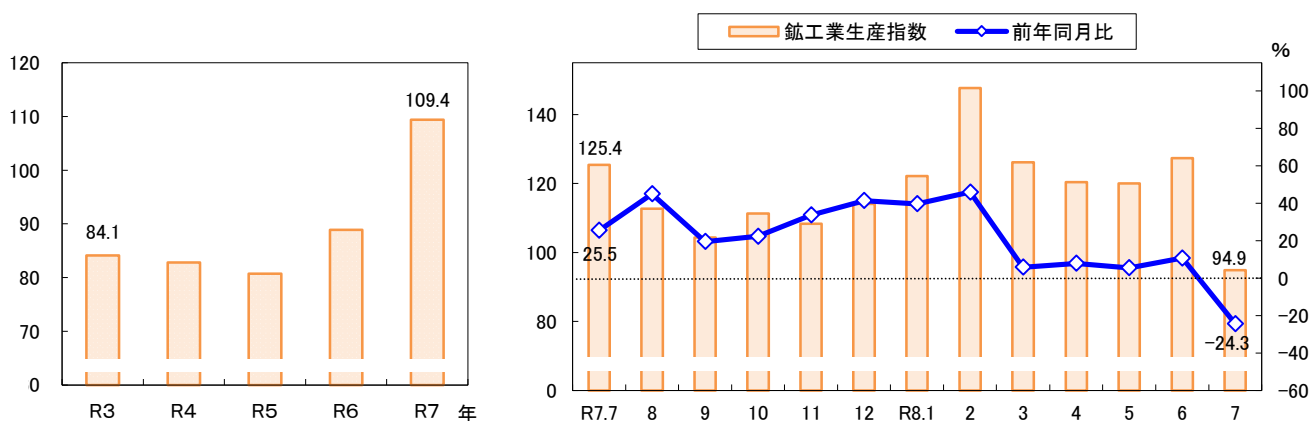


(3) 造船（令和8年7月）

7月の鉄工業生産指数（造船部門、原指数、速報値、令和2年＝100）は94.9で、前年同月比で24.3%減少となっている。

鉄工業生産指数(造船部門)(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】

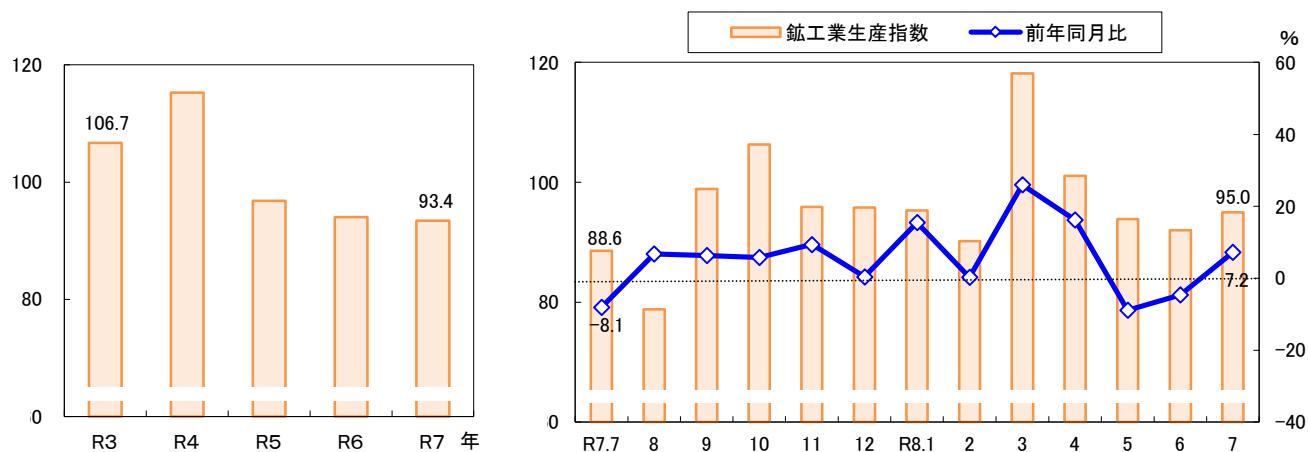


(4) 一般機械（令和8年7月）

7月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)、原指数、速報値、令和2年=100)は95.0で、前年同月比で7.2%増加となっている。

鉱工業生産指数(一般機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

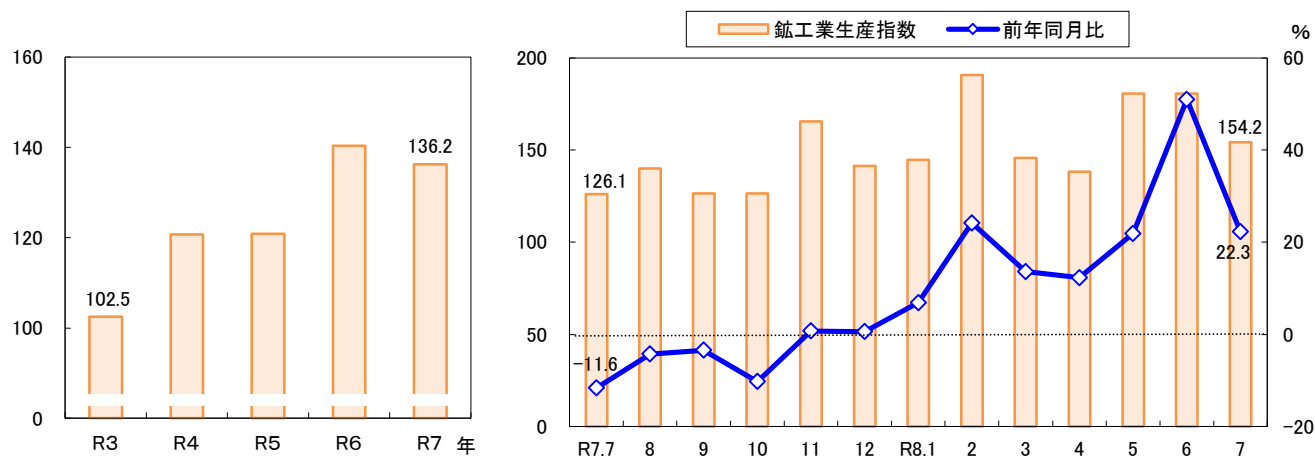


(5) 電気機械（令和8年7月）

7月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)、原指数、速報値、令和2年=100)は154.2で、前年同月比で22.3%増加となっている。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】



3 中小企業の動向（令和8年7月）

【広島県中小企業団体中央会（令和8年8月21日時点）】

（1）概況

県内の多くの企業では、原材料費やエネルギー価格の高騰、為替変動に伴う調達コストの上昇に加え、物価高が収益を圧迫するなど、厳しい様子が窺える。また、国際情勢の先行きに対する懸念などから、景気回復の見通しは依然として不透明である。

自動車関連業種では、7月の国内自動車販売台数は前年同月比+6.8%と4か月連続増加しており、マツダ車は前年同月比+3.3%と2か月連続の増加となった。

また、木材業界では、7月の全国新設住宅着工戸数は66,439戸で前年同月比+8.2%となり、県内では1,015戸で、前年同月比+13.4%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「7月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の7月分のデータに基づく

（2）景況感・景況感の変化

業種	6月の景況感	7月の景況感
食料品	普通	普通
繊維・衣服	普通	普通
木材	やや悪い	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	普通	やや悪い
化学	やや悪い	やや悪い
プラスチック製品	普通	普通
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼（鋳物）	やや悪い	やや悪い
金属製品	やや悪い	やや悪い

業種	6月の景況感	7月の景況感
一般機械器具	普通	普通
電気機械器具	やや好況	普通
自動車部品	やや好況	やや好況
造船	やや好況	やや好況
建設	やや悪い	普通
トラック輸送	やや悪い	やや悪い
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	6月	7月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	3	2	▲ 1
普通	6	7	1
やや悪い	9	9	0
悪い	1	1	0

(3) 前月（6月）から変化のあった主な業種

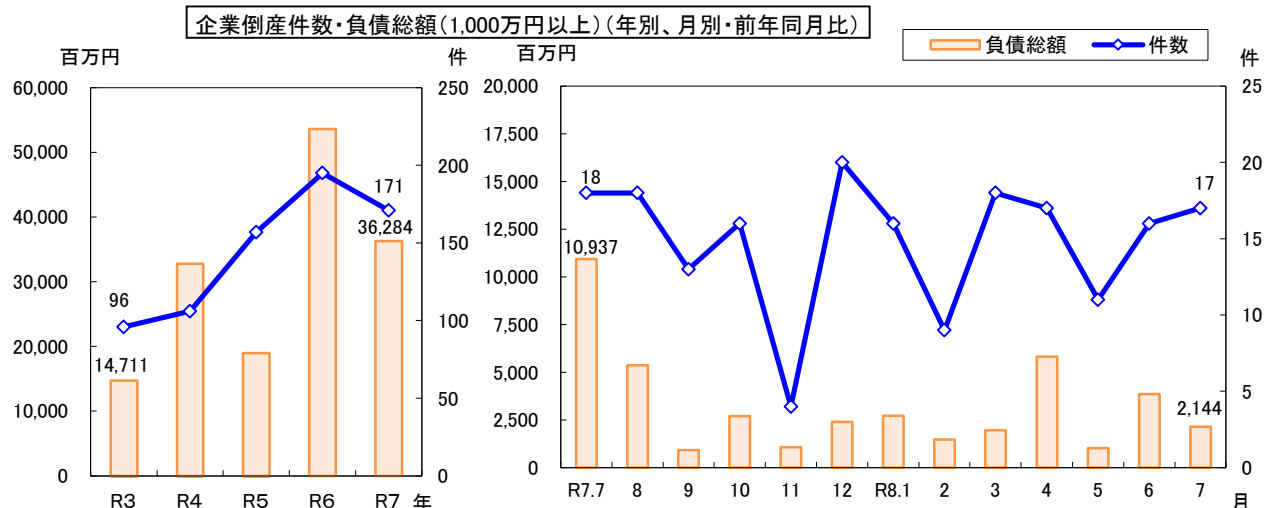
業種	6月の 景況感	7月の 景況感	変化の理由・状況
電気機械 器具	やや好況	普通	・材料価格の高騰傾向は依然として続いており、価格転嫁の推進と生産性向上への取り組みが求められる。 ・日米による協調介入を通じた円高対策が実施されているものの、為替の大幅な変動は先行きへの不透明感を高め、設備投資意欲の低下を招くなど、地元ものづくり企業に悪影響を及ぼす懸念がある。 【広島県東部機械金属工業協同組合（電気機械器具）】
建設	やや悪い	普通	・現状では、今後の見通しに不安を感じている組合員が多い。 ・酷暑対策について、行政が学校の空調にも目を向けているようで、学校照明の節電機器の取り替えに加え、空調機の取り替えにも期待している。 ・広島県電気工事工業組合としても、今年度、空調機の取り替えに伴う助成金を申請し、これから取り替えを行うところであるが、行政の補助制度の活用は景気対策として大きな役割を果たすと考えている。 【広島県電気工事工業組合】

4 企業倒産状況（令和8年7月）

（1）概況

負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が17件、総額21億4,400万円であった。
前月比では、件数が1件増、負債総額は17億600万円減少した。
前年同月比では、件数は1件減、負債総額が87億9,300万円減少した。
大型倒産（負債総額10億円以上）は0件であった。

区 分	令和8年5月	令和8年6月	令和8年7月
件 数 (前年同月比)	11件 (±0.0%)	16件 (20.0%減)	17件 (5.6%減)
負債総額 (前年同月比)	1,026百万円 (29.4%減)	3,850百万円 (26.8%減)	2,144百万円 (80.4%減)



（2）業種別

件数は、建設業が5件、製造業・サービス業が各4件、卸・小売業3件、運輸業が1件となった。
負債総額は、建設業、製造業、卸・小売業、サービス業、運輸業の順となった。

（3）原因別

原因別では、販売不振が16件、既往のシワ寄せ（長年の債務超過）1件であった。

（4）今後の見通し

令和8年7月度の倒産件数は17件、負債総額21億4,400万円、件数は前年同月比は2ヶ月連続の減少、前月比は、2ヶ月連続の増加、負債総額は前年同月比は3ヶ月連続の減少、前月比は2ヶ月ぶりの減少となった。

業歴別倒産状況では30年以上が8件、20年以上が5件、10年以上が2件となり、業歴10年以上の倒産が全体の88.2%となり、前月6月度では業歴10年以上の倒産が全体の87.5%となり、業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が16件で最多となり、既往のシワ寄せは1件、売掛金等回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は17件で全体の100%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は7月度17件中2件発生し、これまでの累計は336件（負債総額1,000万円未満、弁護士一任・準備中を除く）となった。近時、増加傾向である代表者の急逝を要因とした倒産については（有）インテリアアティックで1件発生、檀上食品工業（株）は原材料高騰で倒産した。

令和8年に入るとイラン情勢緊迫化、ナフサ供給不安樹脂・包材などの先行値上げ在庫急速低下、一部企業の受注停止に加え、ホルムズ海峡目詰まり、塗装材深刻な不足関税問題と為替の乱高下工期遅延、完工入金ズレによる資金繰り悪化。更には日銀が政策金利を1.0%へ利上げ「金利のある世界」への対応とし、金利の高止まりによる借入金利上昇、利益率圧迫、市場淘汰の激化などこれらの環境変化は、企業に対し従来の延長線上ではない組織運営を突きつけている。

差別化された商品・サービスを有し、コスト増を適切な売価へ転嫁できる企業や、多角的なサプライチェーン管理体制を構築している企業は収益基盤を維持・拡大できている。しかし、価格転嫁力に乏しく資金余力のない企業は、仕入高騰、金利負担増、キャッシュフロー悪化の三重苦に晒されており、市場からの脱落を余儀なくされる局面が増加している。今後も為替や中東情勢の不確実性が払拭できないなか、企業が生き残るための喫緊の課題は「仕入先の分散・サプライチェーンの強靱化」と「金利上昇を織り込んだ厳格な資金繰り管理」である。徹底したコスト最適化と付加価値向上による価格転嫁を進められる企業と、対応が遅れる企業との間での二極化と市場再編は、今後さらに加速していく見通しである。

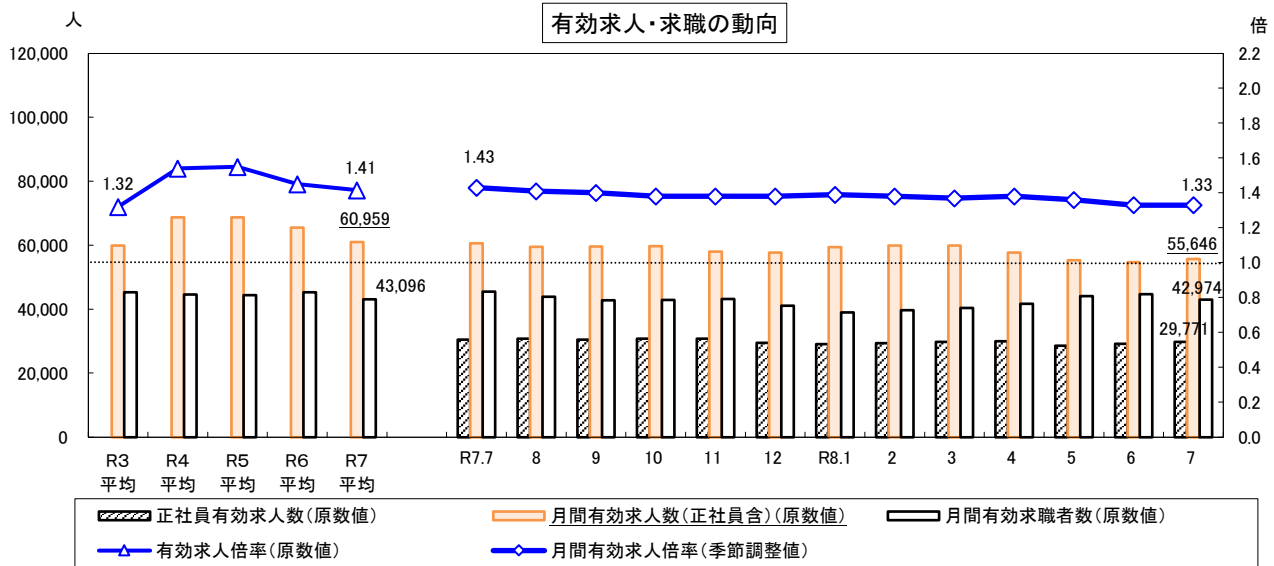
【（株）東京商工リサーチ（令和8年8月5日時点）】

5 最近の雇用失業情勢（令和8年7月）

(1) 県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和8年5月	令和8年6月	令和8年7月
有効求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	1.36倍 (▲0.02ポイント)	1.33倍 (▲0.03ポイント)	1.33倍 (±0.00ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.13倍 (▲0.05ポイント)	1.16倍 (▲0.04ポイント)	1.20倍 (▲0.02ポイント)

【広島労働局】

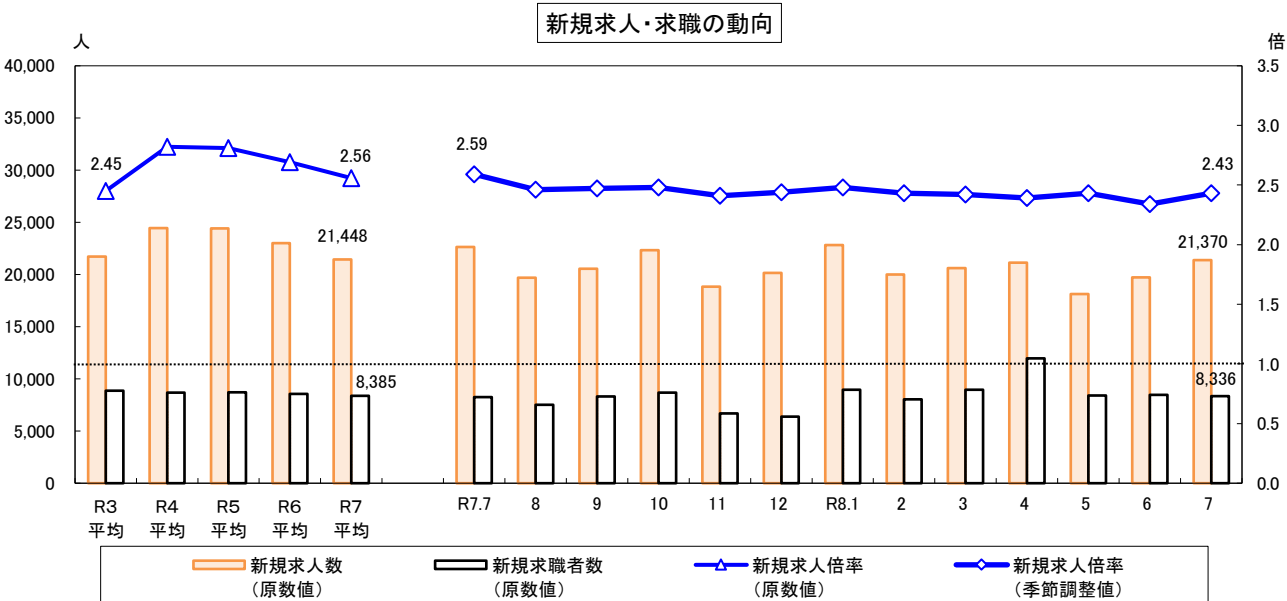


- (注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。
- (注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。
- (注3) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

(2) 県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和8年5月	令和8年6月	令和8年7月
新規求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	2.43倍 (+0.04ポイント)	2.34倍 (▲0.09ポイント)	2.43倍 (+0.09ポイント)

【広島労働局】

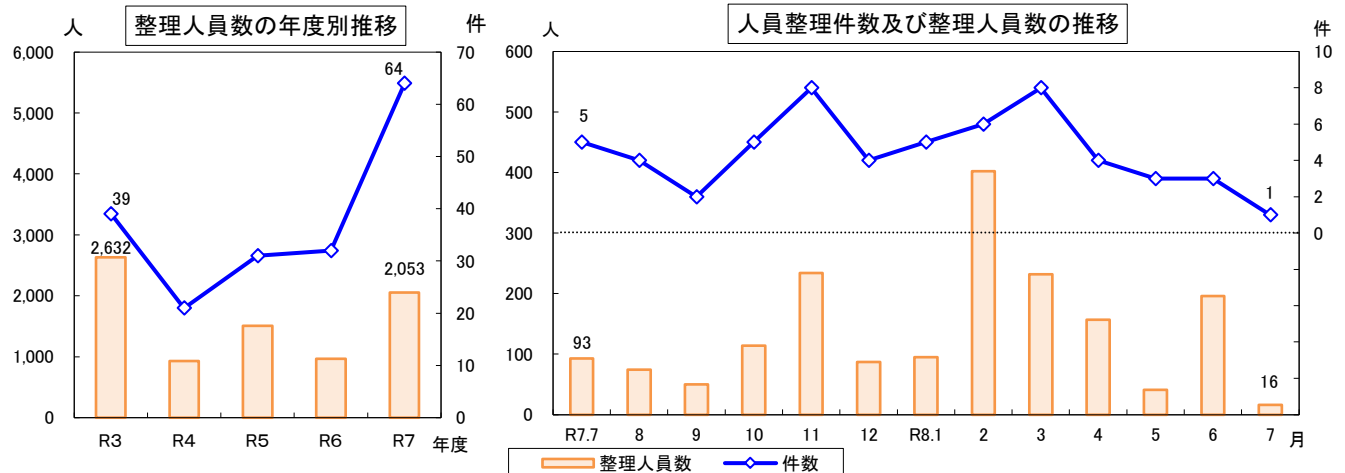


- (注) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和8年5月	令和8年6月	令和8年7月
件数 (前年同月比)	3件 (▲4件)	3件 (±0件)	1件 (▲4件)
整理人員 (前年同月比)	41人 (▲388人)	196人 (+151人)	16人 (▲77人)

【広島労働局】

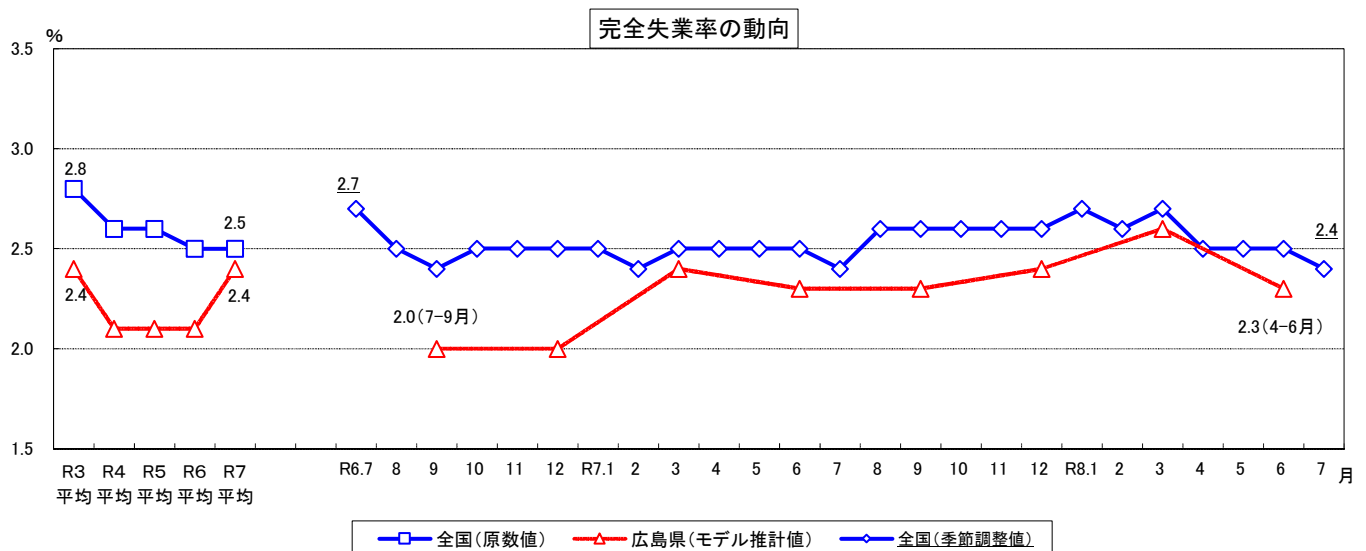


(4) 完全失業率の状況（全国・県内）

区 分	令和8年5月	令和8年6月	令和8年7月
全国完全失業者数 (前年同月比)	185万人 (+2万人)	178万人 (+2万人)	169万人 (±0万人)
全国完全失業率〈季節調整値〉 (前月比)	2.5% (±0.0ポイント)	2.5% (±0.0ポイント)	2.4% (▲0.1ポイント)

区 分	令和7年	令和8年	
	10～12月平均	1～3月平均	4～6月平均
広島県完全失業率 〈モデル推計値〉 (前年同期比)	2.4% (+0.4ポイント)	2.6% (+0.2ポイント)	2.3% (±0.0ポイント)

【総務省統計局】



※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去に遡って改訂される。

※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去に遡って一部改定している。